No.25
2014.10.1.発行

# 紫芳会だより ～輝く先輩達～

日本脚本家連盟員　放送作家・クラフト作家
跡見女子大文学部卒

## 中ぞの蝶子氏 (高校23期)

(本名:森 和代・旧姓:中園)

**=主な放送作家歴=**

「春は来る」(NHK－R2)脚本・演出　小野武彦主演
「いろはにほへと散らぬは花子」(LF)脚本　加藤治子主演
「現代作家　ミステリー劇場1」(TBSブリタニカ)
一人芝居(舞台)「夢二をめぐる三人の女たち」脚本　小原乃梨子主演

**=craft歴=**

2005 Oct　横浜市青葉区アートフォーラムあざみ野・オープニングイベント出品
2008 Sep　パリ「きりえ展」
2008 Oct　Hungary Budapest Opera Gallery　"Japanese contemporary Art Exhibition"
2009 July Hungary Budapest Opera Gallery　Contemporary Art Exhibition "Japanese Spirit"
2011 Feb　企画展「芸術の存在意義展」東京・国立　ギャラリー・アートイマジン
2011 May　カナダ・リッチモンド市　ルーファスリン・ギャラリー出品
2011 Nov　花蹊記念資料館　企画展「廉書会」初出品　以後毎年出品
2013 Mar/ Nov　アートフォーラムあざみ野　「小さな展示会」
2014 Mar　アートフォーラムあざみ野　「小さな展示会」
ほかに、たまプラーザ・町田・長野東急百貨店催事、都美術館並びに川崎ミュージアム「きりえ展」、跡見ギャラリーなど出品多数

kindeko

2010年　gold の和紙(でこぼこ)も自作

imagin

2011 年 1 月完成　何に見える？ご自由に想像して下さい。

私が立高に在籍していたのは1968年から71年のことです。思い出すのは、ハーモニカ部の新歓コンパで先輩が歌ってくれた「蒙古放浪歌」とバリケード封鎖と講堂焼失。「蒙古放浪歌」の♪砂丘に出でて砂丘に沈む♪という歌詞に胸打たれた記憶は鮮明です。そして高校2年秋のロックアウト。連発される自己否定という言葉に以後固まりましたね、完全に。

3年後、私は1本のラジオドラマを聴く機会を得ました。『鳥獣保護区』。深い森の中で隠遁生活を送る男のモノローグドラマでした。ランプの光と無数の蛾。舞い散る鱗粉を浴びる男の背。高度成長期に敢えて自らドロップアウトした男の意思。それらが科白や音楽・効果音を含めた“音だけで迫ってくる波動”。その波動が、固まっていた私の心をようやく動かし始めます。「そうだ、ラジオドラマを書こう」。

丸の内の特許事務所に勤める傍ら六本木の放送作家教室に通い、小さな賞を取って放送の世界に入りました。最初の仕事はニッポン放送のオリジナルショートドラマ枠でした。その時担当プロデューサーが付けてくれた筆名が中ぞの蝶子。70年代が終わりを告げる年のことでした。

80年代、私は7・8本のレギュラーを抱えて都内のラジオ局を走り廻っていました。童話の脚色。ラジオエッセー。インタビュー番組。原稿を書いては収録に立会い。週に2回は芝居も観て。俳優やミュージシャンらの仕事仲間に囲まれて。飲んで喋ってラジオドラマもそこそこ書いて。あの頃のラジオはテレビよりずっと懐の深い面白い遊び場でした。でも実はある揺らぎも抱えていたのです。ここが本当の居場所？

the earth

2011年8月完成
I love this planet.
I wish to keep the beauty of the earth.

seeds

2013年10月完成
collage of orginal pattern

stream-br

2014年1月完成　染めた揉み紙を眺めては脳裏に文様が浮かび上がるのを待って、下図なしにcut

stream-e

2014年3月完成
eは江戸のe

paper Parthenon

2014年4月　photo montage (fusion of my craft and my photo)

あるオフの日のことです。仕事部屋でぼんやりしていると、赤茶けた古本戯曲集に混じって妙に光る本が。それは色彩に関する本でした。よく見ると、文様、世界の紙、染織、伝統色名、襲の色目。上質で装丁も美しく、しかもやたらと高い本が書棚のあちらこちらに点在しています。放送用資料として買ったものではありません。「こんな本、いつ買ったんだっけ・・・」パラパラとめくり始めて私はびっくりしました。宝の山がありました。自分で買っておきながら日々に追われて開くことの無かった宝の山です。こういうのを**天啓**というのでしょうか。そう言えば、高校時代、途方にくれると浮世絵を、ことに文様を丹念に模写して遊んでいたな、なんてことも思い出し・・・。

90年代後半息子が11歳になった時、私は色彩学の勉強を始めます。昔から勉強はできなかったけれど、勉強が好きだったんです。色票を手離さず。世界の文様にのめり込み。伊勢の型紙に魅了され。琳派に惹かれ。オリジナル文様を編み出しながら、連れ合いの後押しもありEurasian Art Craftなる独自のジャンルを創り上げていきました。

箔のあしらいを専門家に学んだのはNHKでラジオ福祉番組のディレクターをしながらでした。ディレクター稼業とのダブルワークは9年ほど続き、現在はシナリオコンクールの審査員を務めるぐらい。Craft製作に力を注いでいます。

じゃあ、そのEurasian Art Craftって一体何よ。一言で言えば、装飾美術として扱われてしまいがちな文様を前面に押し出したCutting Art Work。Contemporary Artです。和紙を染め、オリジナル文様を切って、幾重にもレイヤーしていくabstractです。シルクロードを舞台に文化の振り子運動を支えてきた文様は、永遠の文化大使であると私は考えています。と言っても分かりにくいですよね。興味のある方はHPを観て下さい(笑い)。

ラジオドラマとは随分かけ離れたところに来てしまったかのようですが、ストーリーを構図に、科白を文様に、効果音や出演者の声を色彩に置き換えてみると、Eurasian Art Craftってまるでラジオドラマみたいじゃないの・・・ということに最近気がつきました。

たまたま入った立高で自分の立ち位置を見つけられず、たまたま聴いたラジオドラマをきっかけに、たまたまなった放送作家を迂回して・・・ようやく本当に好きなことを見つけたのは50間近。これはたまたまじゃない。たまものです。気づくのが遅いんじゃ！と自分を叱咤しながら(それだけ時間が必要だったということか・・・)、ここまで不器用だとむしろ立派と苦笑いしながら、今日も私は和紙を染め、文様を切ります。次々と構想が湧いてきて、耳から溢れ出しそう。姿勢の加減で背中が痛くはなるけれど、兎に角楽しい。紆余曲折も今となっては、いと面白し、です。立高時代からの友人が親身になってくれることが有難く、フランス人ドイツ人・・・心通じる海外アーティストにも巡り会えた幸運を支えに、残り僅かな時間、ひたむきにCutting Art Workと向き合っていきたいと思っています